



## 一体ずつ心をこめて 生命を吹き込みます 人形が私の分身になるんです

佐々木 章さん  
(劇人形作家)



HITO

鬼怒川の東武ワールドスクエアにある25分の1の人形は、佐々木さんを中心とするスタッフの作品で、全部で12万体制もあるのだそうです。「あれはどちらかと言うと人形より模型と言った方がいいかもしれませぬ。」と佐々木さんは笑います。

「私が作った人形たちはテレビや映画など、きつと皆さんもどこかでご覧になったことがあると思いますよ。」と穏やかに話してくれるのは北入曾にお住まいの佐々木 章さん。人形の制作に携わって50年になる大ベテランです。

佐々木さんは小さいころから絵を描くのが好きでした。昭和29年ごろには、当時は珍しかったアマチュアの人形劇団を結成し友人たちと青森で活動していました。もともと絵や造形を学びたいと考え、上京して武蔵野美術大学で彫刻を専攻しました。そして卒業後も造形に関わる仕事をしたいと思い、人形アニメーション映画の世界に入ったのだそうです。人形を少しずつ動かしながら撮影するこの映画に魅せられて、これまで30本以上の映画の人形たちを作ってきました。人形は、全部私が一人で

作るんです。監督の話を読んだり映画の台本を読んでいると、登場人物や動物のイメージが沸いてきます。それをスケッチして一体ずつ作っていきます。そして人形に着せる服も自分でミシンをかけて仕上げますから、人形というより私の分身と言った方がいいかも知れませぬ。その人形たちを映画に送り出すときは、まるで娘を嫁がせる父親の心境です。作品それぞれに思い出があります。特におとぎ話『鶴の恩返し』やアンデルセンの『雪の女王』が心に残っています。」と佐々木さんは話してくれます。

一体一体に心をこめて作った人形は、ベテランの人形使いの手にかかると、まるで生命が宿ったように生き生きと動きます。「こんなときは、人形使いたちと呼吸がぴったり合った気がするんです。」とおっしゃる佐々木さんは、最近はCGの映像が多くなったので、人形アニメーションを作る機会があまりなくなっていました。CGの技術もとても素晴らしいと思います。CGの技術も感ぜられないんです。それに比べると人形には、味があるんです。」と人形の魅力について語ります。また、佐々木さんはアニメーション映画の人形だけでなく、人形劇団で演じる人形なども手掛けていますが、これまでに制作した人形はなんと5千体以上に



佐々木さんが手掛けた「りゅうの目のなみだ」の一場面。やさしい顔の子どもたちが、見る人の心を、ほっとさせてくれます。

なるそうです。自分の分身ともいえる人形が劇で演じられるときは、一人の観客として見に行くそうです。「人形劇では子どもたちの反応を見るのが楽しみです。子どもたちが、自分自身も劇の登場人物の一人になって喜んでくれるのを見ると、私もうれしくなりますね。」と目を細めます。

これからの夢を伺うと、現在はハイテク時代ですが、だからこそ一体ずつ心を込めて作る、ローテクを極めたいと思います。じっくりと時間をかけて劇を作りたいですね。そして人形作家としてこれまで腕一本で続けて来られたことには満足しています。でもいつになっても「これだよ。」と出来はえに満足することはありませんでした。生涯勉強が続きます。そしていつかは満足するものを作りたいですね。」と力強く話してくれました。

# 市民一人一人が市を好きになり 税を考え、正しく申告することが 住みやすい狭山市となる第一歩



申告が必要とは分かっている、申告書の記入は難しくそうで尻込みしてしまいますよね。市民税課では、自分で申告書に記載ができるよう、分かりやすく指導してくれます。

## REPORTER'S EYE

### 市民税課(市・県民税の申告)



【リポーター】

高島厚子さん(下奥富在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がレポートします。

2月3日に頻繁に「目にするのが確定申告」という文字。確定申告は昨年一年間の所得を申告し、所得税を納めるものだとこのことは分かっている。でも、サラリーマンは医療費控除など以外は年末調整で所得税の清算が済んでしまつので、あまり身近に感じません。それに「申告=確定申告」というイメージが強く、所得がない場合は申告をしなくてよいと思いがちです。しかし、広報紙などでは、市・県民税の申告を同じ時期に実施していると紹介されていて、どうやら申告というのは確定申告だけではなく、税の申告について伺いました。

市民税課で扱っている税目は、個人市・県民税と法人市県民税、軽自動車税、たばこ消費税だそうです。その中で毎年所得の申告を必要とするのは

個人市・県民税です。この税金は前年の所得を基に計算され6月に税額が決まります。市・県民税は、所得に応じて負担する「所得割」と、一定所得以上の人が広く負担する「均等割」に分けられていて、所得割の税率は全国の市町村で一律だそうです。

さて、確定申告と市・県民税の申告の根本的な違いは、市・県民税は税額が出るから申告をするのではなく、前年中に所得があつた場合に申告する必要のあるものなのだそうです。ただし、市・県民税の場合、サラリーマンは会社から給与支払報告書が、確定申告をする人は税務署から確定申告書の写しが市に送られてくること

で申告が免除されますし、年金をもらっている人は社会保険庁などから報告があるので、市・県民税だけを申告したという経験はあまりないと思います。ですから市・県民税を申告すると言っても「ん」と来ないかたも多いのだと思います。

では市・県民税の申告はなぜ必要なのでしょう。申告した内容は市・県民税の課税資料になるのはもちろん、各種福祉関連の制度の判定資料になったり、国民健康保険税の算定や高額療養費などの給付を判定する基礎にもなるのだそうです。さらに、申告をしていないと課税証明(所得証明)が必要なきにすべしには発行してもらえない場合もあるそうです。また、年金をもらっている場合は年末調整がないので、申告しないと生

命保険料控除や配偶者特別控除などが反映できないことがあります。申告しなくても税金の通知が来るからと安心せずに、控除できるものがあるならば必ず申告したほうがよいことが分かりますね。

今回は、これまで私があまり意識していなかった、税の意義を考える機会が得られてよかったです。市・県民税は住民が広く負担し、みんなで行政サービスの対価を払おうというもの。住みやすい環境を作るためには当然多額の予算が必要だし、市・県民税がその財源になっているということが実感できました。納税義務者は、私もそうでしたが、できれば税金を払いたくない。という気持ち強いと思いますが、税について学べば所得控除などについても理解が深まり、節税にもつながります。義務だからと考えるのではなく、税の使い道などを知り、税金を納めることで市政に参加しているのだという気持ちを持つことが大切だと思います。私たちが市民一人一人が狭山市を好きになって税を考え、正しく申告してみんなで住みやすい市をつくりていきたいという気持ちになれて良かったです。皆さんもぜひ、よりよい狭山市のために市・県民税の申告をしてください。

問い合わせ市民税課 申告方法は広報やま1月25日号をご覧ください(入内線10992710995)